

# 農ある暮らしの基礎となる自然環境を再生保全できるコミュニティづくり

活動地域  神奈川県

つづける助成

# 3年目

実践

農園活動、田圃・沢整備、山林整備 **152回**

シンポジウム・ワークショップ開催 **7回**

今年度計画の達成度 **70%**

全体計画の達成度 **70%**



川勾の山林で皆でさんぽ道をつくる

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

農ある暮らしを広める会の活動は多くの住民に知られるようになったが、連絡手段の少ない高齢者にはあまり知られていない。対策として地域の回覧板に活動報告を添付した。

### ■工夫した点

広報活動の充実（イベントチラシの各種団体、小中学校への配布、SNSの積極利用）、活動現場の開放（オープンデーの設置、現場での講座の開催）、行政への定期的な報告。

## 課題

地域の過疎化が進み、山林・農業の担い手が減ったことで里山では生物多様性が失われ、子どもたちは自然教育・体験の場が奪われ、食の安全・安心がなくなりつつある。

## 目標

遊休農地や荒廃した里山を復活することで高齢者や子どもたちの居場所となり、自然菜園を持続可能な形で営むことができ、自然環境の保全維持を住民自ら行う地域となる。

## 活動内容と成果

農園活動、田圃・沢整備、山林整備は合わせて152回の活動を行った。また、大地再生・環境保全に関するイベント等を7回開催した。①「吾妻山・東谷戸の再生」ワークショップ：70人参加、②「川勾の山林でさんぽ道づくり」ワークショップ：60人参加、③「山水郷循環するわたしたち」シンポジウム：210人参加、④映画「大地の再生の詩」上映会：400人参加、⑤「筏づくり」ワークショップ：34人参加、⑥「はじめての山林整備」講座：5人参加、⑦「海から見た地球」シンポジウム：140人参加



吾妻山・東谷戸で皆で水の道をつくる

## 全助成期間の活動を振り返って

この3年間で行政、多くの団体、多様な市民と繋がることができ、活動は「個の活動」から「繋がる活動」へ大きく発展した。「谷戸田再生ワークショップ」に参加した中学生が松下政経塾主催の「松下幸之助杯スピーチコンテスト」で「スコープひとつでできる素敵な未来の地域づくり」をテーマに発表し、決勝まで進むことができた。私たちは「素敵な未来の地域づくり」を目指して活動を進めてきた。今、実を結びつつある。



はじめての山林整備講座（川勾山林）

〒259-0123  
神奈川県中郡二宮町二宮133番地  
電話：090-2147-0134  
E-mail：ein03stein1649@ozzio.jp  
HP：http://www.nou-aruru-kurashi.org



## 今後の展望

「生物多様性を繋ぐ」を共通理念として、三つの自立を目指して活動を続けていく。①会の自立（助成金、寄付金に頼らない運営）：行政からの事業委託、山林整備の有償請負、木材・竹加工品の販売、収穫物の販売、有料講座の開催。②食の自立（安全、安心な野菜・米を自給自足）：自然農法実践者の育成。③自然環境コミュニティの自立（地域住民による環境保全）：環境保全実践講座の開催、自然環境教育の充実。

